發句[illegible]上

發句[illegible]卷四

發句帳　巻第四

二十四餘題而
三百七十六種

發句帳 冬の部

題

初冬 第一　時雨 第二

残菊　落葉

木枯　霜

冬の月　寒の草

氷　霰

霙　初雁　炉火　早梅　歳暮

雪　水鳥 付鴛 千鳥　神楽　年内立春　雑冬

冬

初冬

神無月山さしかゝる紅やともかし　心敬

神無月人をはらひさそふや野ゝかね　宗砌

秋はいろをとゝくてを見するや神な月　宗祇

神無月うへまつまかきまいをなし　同

かすむ江乃山水をかし神無月　宗牧

神無月はるゝやさあけ乃うそゝかり　同

さてや花見ぬこれはるゝ乃かへさな月　周桂

かえんな月その見て冬はへにかかる　同

神な月まつりし社もゆかりかな　信作

くもんな月まつりしはきけのみつめ哉　宗養

時雨

晩くる間と思へは去年の時雨哉　心敬

いつれ山しくるゝ雲の峰ともの那　肖柏

河音も山ちかめくらしくれ可那　行助

山城こえ都をめくりしくれかな　宗砌

冬きぬとしくれになりぬあらし山

時雨けるも照日常あるしくれの那

ちりもかよ染し志くれの下紅葉

そめはつて落葉にかゝる時雨かな

雲は山城はさめわたる世の時雨の那

雨木氣晴りて晴るすゝしくれ行か

嵐くるとは月をわすれて時雨の那

河音は波乃ゆきけのしくれか那

うき雲の定めく里するしくれの那

むら時雨晴ぬもる里の宿りの那

しわすりや浪にもあつしくれ

神無月今日は雲のしくれ初しくれ　宗祇

そめし山あらしをはふやまつの時雨　同

秋そめぬ山をあらしや川しぐれ　同
深くて木がらしまかる時雨かな　同
はる秋はきのふの雲にしぐれかな　同
めぐりきそのけもしぐるゝ月白哉　同
雨いつきかせはしぐれぬ山の形　同
ゆふ時雨めぐるはさよのまくら哉　同
よるこえし雨や川音あさき時雨　同
あさかしもなき道を孫ぬ夜乃時雨哉　同
羽のしも孫ぬよしぐるゝ狩もすれ　同

かうまで侍し會ニ

なるのきくまおりし数の形　同

難波わたりにて

まつ風の跡もしぐるゝゆふべかな　同
我庭そ見る時雨ゆかりをまかせ乃松　同
時雨けりやぬ雨ぬやとりのまつり　同
高千あまに時雨いのせそ松のいろ　同
あま雲のよそのしぐれやまつ川の色　同
木々は猶松もしきさ夢のしぐれかな　同
いさつくに雲をしぐれきぬきぬ哉　同
宿ろの寒さにかへし世代よりの時雨哉　同
つらなれもさしの細雨や一しぐれ　同
あさかる時雨にめぐる月のかな　同

けさを見れはやとしも月の小志くれ　同

こゝろまてしやとは時雨の木隠かな　同

またかりさし時雨と宿れうこしかれ　同

時雨をもやとハ乃とけき那かれ　同

宗祇のさすしらは唐傘ゆく　同

よるみるもゆふは時雨乃宿りかな　同

志くるなとし雲すり宿かりの高瀬かれ　同

送りて同やとふくる志くれかな　同

白河は世さめく

袖すられ時雨はせれの山ちかれ　同

袖ぬみよ時雨はつましし山めくり　同

鳥はねも雲すし志くるゝ大山かな　同

と代山は雪や河すえんさよ志くれ　同

谷さむきゆきやと代山あさ志くれ　同

座まことゆる時雨を云ひれは謡かな　同

世うつ根こせは志を那乃たつ時雨　宵泊

田舎まくの會に

ことふや志木乃や乃との初時雨　同

木からしやところくのたつ時雨　同

里あまよ外面乃楯のたつ志くれ　同

ゆふ月よ時雨すし更し雲も里哉　同

播州綾部郷月の岑といふ山寺にて

ゆけふりしくれし月のみねの松　同
中門の影にこほれもいく堂ひ初時雨　同
天満宮法楽に
深みとりいろにしくれの一葉まつ　同
辰満にて
うつさひ松は時雨の色よりの露　同
清水寺の会に
陰ありし木の葉しくれの音羽やま　同
更科のかとりにて
一しくれ更野に雨よし夕日かな　同
明石にてゆかりし時

あさかきに夕しくるゝ浦湾かれ　同
いつれいつれを野にゆく
いつれも野や取ゆくぬまの時雨の跡　同
嵐山にて
月もまつ葉の根おりひかりけそ初時雨　家頌
わきまへや一すのやとれ初しくれ　同
月をめはひとりしくれてわかし哉　同
雪おもいくへしくれけり神無月　同
千代のいろも時雨やみもる窓の雲　同
猿引思ひとまりての会に
山あさをむかひ鉄よのしくれかな　同

伊吹にて

堂の松に寺風ゆきあらし一志くれ　同

紅葉ちりいはほにかゝる志くま　同

四方山は雲やこゝやあたり志くれ　同

ゆくの空のそよ時雨ゆふ山の端　同

簗田瀧坊にて

浦松やこほり初し世は志くれかれ　同

なくさんをうちにいそき小時雨　宗牧

ふふハ舟そうもくをうぬ時雨哉　同

ふりもへしやとをりての時雨哉　同

志ら雲はよそに峯こす時雨の端　同

めくりまやこそちきいそく夕時雨　同

やま風れたよりすくゆぬ時雨かな　同

山水はもとゆく人そめし志くれかれ　同

ゆくまゝに見まわうく時雨かな　同

まつは水の里月すくわうさよ時雨　同

松の風にことのあすしは時雨の端　同

聚の人もせぬまつや知人秋しく連　周桂

めくりあん門ちもうかりし初時雨　同

木末ちるそろやちる葉の初志くれ　同

ゆ逢てすゝ月まいとしいぬ時雨の哉　同

松乃いろハ音をしくれの打そうかな　同

和漢

夕日かけは山のいやかし時雨　昌休

晴れとしをいくむかし時雨みよの秋　同

山とはを志るへ遠はとく時雨夕日哉　同

兵庫にて

ちつつふむこ山の緑の志くれ哉　同

猿りの人にふめ真砂

見んやこえん志くれに思ふ山路かな　同

於堺

いそのまつ晴や時雨あし夕附日　同

書写山十地坊真砂南山白山権現勅詣

またかね雲は志はし根まよふれ夕時雨　同

そなれ色の山のせいほにまつ志くれ　宗養

見されて汀のうへはむ常時雨かな　同

河里あけは浦つたひする時雨かな　同

山志もの夕日そよめく時雨かな　同

散りやかて時雨や雲のむらさきそら　同

猶のもみたれてかゝるわし哉　紹巴

峯はまつ時雨をふくむひくきかな　同

ゆきの緑す松や一本むら志くれ　同

月ふると時雨をやとしのこころ哉　同

学てふそてまつらぬ時雨のか　同

人もなふそしにもつゝき時雨かれ　同
しぐれまやつまて荒こまいその波　同
音をとゞめくやね覚乃さよ時雨　同

十月二日

江戸もりの时雨や那のかふのゆき　同
越乃ゆき見やこまつもり时雨かれ　同
山もむや末ふれいさ嵐のさよ时雨　同
みつまへて同や江戸もりゆふ时雨　同
やとどのふさゝめよ山ハ初しぐれ　同
さよしぐれも家くゆき日や暮れ雲　同
雪れ冬もわかれ見しりゆふ時雨　同

おくみえぬんのまつ乃时雨かな　同
みけもをむ月やこゝろれさよ时雨　同
松乃葉まさゝうつわや羽ゆふしぐれ　同
ゆくつきの跪や小舟ゆふしぐれ　同
うき世かる月出くよりさよ时雨　同
月落し时雨やさよのや夜ぶかし　同
きして乃ゆく夜まをしろく時雨哉　同
ゆきてもそてや宿もゝり夕时雨　同
きゝ合や松ちり音するさ夜しぐれ　同
时雨さて月もむかされとやまかれ　同
しぐれ行人無かほともふたもとのあ　同

汲しく乃と紀を木ミすれ時雨かな　同

よふ宵乃人く恋しの時雨かな　同

うき雲のまとしあへす時雨かな　同

志くきミぬ跡ら消そ舟のちらつく雪　同

歩くくろまや宵星出よの乃むつ志られ　昌叱

りしこ河を世にうらもや初時雨　同

老母に別く

またおさん人なき袖の志くれかな　同

たつ行をめくりてかへれさよ時雨　同

昌休於三回千句第九時雨

年丸矣乃いつきふりしの夕時雨　同

摂州中嶋六条へ居住のと紀

お紹巴興行

きくやいりなまし河音さよ時雨　同

小野月次

ゆりあるゝまとされみちの時雨哉　同

まよ東乃風も音かへてふる時雨かな　同

昌休五十年忌於私宅

めくる男や五十のゆめのさよ時雨　同

石井好倶興行

松の声・河かたくあゆの時雨かな　同

江州守山にて十一月八日

かゝる山くもらぬ松ての時雨かな　玄仍

於大坂
浪のこゑを窓にきゝかす時雨かな　同

残菊

霜をりて又さくさかるを花の庭のこゝろ哉　同

冬草枯れ残く咲わかさを庭のきゝれ

咲そふ秋かれもあきのさく　宗祇

あきを重く行くやたつ霜露枯れさく　同

しら菊やむきはとくその中の枝　同

うけや秋さくまて氷らぬうすのみ川　同

木かくしけさくまつわせ菊山路哉　同

冬やとれうつろふうちのさく庭　同

冬やうつを老せぬ菊の庭ことか那　同

木かくしをよそけり菊の匂ひか那　同

うつろふく菊みちふまて神無月　同

されつ見ん菊をうつ露をこゆの庭　肖柏

木葉にとはそまれぬ花や庭花さく　同

ときしる菊さく庭の紀冬をまし　宗碩

冬そ見るわのゆてふうすや宿の菊　同

木枯てうねさく行く背枯重か那　同

菊所ちまち月よりうへの雲もなし　宗牧

冬のまゝ

冬をつめ月を　わけの菊乃宿れきく　同

こく咲て松にそへる庭も小菊をなし　同

残る色を清めさくも九日小菊をなし　周桂

冬かけく残くま清をさく千年哉　同

入れなるひの落葉も菊くの白ひの那　昌休

秋もなきを尽さくねきくのまつさ哉　同

きくは白氏白ふころも手冬をなし　同

ゆきや花ゆりとをての宿のきく　宗養

乃これ菊おもし八重しられ乃そら　紹巴

ちりぬこそ冬まさに出清光くの色　同

あさ比霜にかふやきくの色れの庭　同

冬花乃ゆくさまいきそのしらきく　同

冬草比いろや緑さまん光くの色　同

秋をとききく冬れ花なりきくの丹色　玄仍

落葉

散りはゆくしのかゆそ紅葉のれ　心前

あくかちりをうら氣特岩根かな　同

神無月本れめ来ちのおち葉かな　宥瀘

鴨比羽小つまかきつけ比紅葉かな那　同

やま風はよそにきこえの落葉の音は　同

まつ風はちらぬ木のはも時雨けり　雪順

散音をきくれはよるの手まくらかな　宗和

をともちよふりのちは雪けの時雨かな　同

枝をつれわかしの木の下霜くれ　同

冬木まて遊ひし其山のもみちかな

雅　雲月のさねく落葉むちそつれ

木のしたにうさねて霜のあらそ哉

そく霜のきかくそめなす落葉の跡

木葉よ里きくれてし知らぬ山下風

こやくし暮て山風ふかぬ木のもとかな

散しくもみちをそれは時雨の跡

木葉ちるまつの秋はいろいろの千種の跡

風みえて木のもとめくる落ちる葉哉

音信のかれ木の葉のしくれの跡

月はに網ちるはつゆの下葉の跡

右乃手と

たまのをせくおちそや　にまかす水

いつくちる木のもとをかき見山哉

うつろふし花おちそくまつむ木葉哉

ちりしすく風や山のもとむらかしハ

ぬるともあり散りみちこそ　雅　雲月　宗孝

われをとそてちるう葉寄乃見れ月　同

先ちるもこゝろのうろきあきのは哉　同
色こきはゆふしほちりの木の葉哉　同
吹ふひのかせのいろかむちハうれ　同
まちてちれみやこれハうす紅葉　同
そめくてちるも時雨の木葉かれ　同
そめし秋の時雨まかへはこゝの紅葉哉　同
ちりそむるこれなる雨の一しくれ　同
ちるの音をそ絶るゝし雨の薄紅葉　同
かせ待ハちはよりをろき木乃も哉　同
ちるをかよみしやそめし下紅葉　同
色かはもちはまをそれ本れも哉　同

いろあり紀木葉の庭もちりまかし　同
吹あそてよ折ち葉を庭のはきあらし　同
うせやちは遊は木のその音かれ　同
木葉をちり打もゝこふんあ絶をかし　同
まるふくを雨も落るのゆきとうる　同
秋雨そ今絹かりすくあのたそうれ　同
秋風を木の葉ハはあらしさかれ　同
とは山乃こくまは水はあ乃ハうれ　同
こくまはり木乃を似行く乃瀧乃色　同
ゆふしはもゆうせぬ瀧の落はうか　同
木葉もあまり川ハうとけきゆし哉　同

須吉して

いく世へんちりうせぬ松乃下紅葉　同
木枯をさきに紅葉とさけ山の梢し哉　同
おち紅葉せし梢なりつもるあらし哉　同
さそふの袂たゆめハ松や木葉哉　同
そらしに散をとちハ風ばこすゑなるか　同
おちハすゑこすゑあとをさき吹とばし　同
花はゆくへもしれぬ風にこれも哉那　同
ちりそめしねそてを散れこのもれ　同
そよぎとなく木ハうつも散く木葉哉　同
秋わけてめりきぬ露のこれてかれ　同

冬門霜をいま一しか乃木葉かれ　同
ひろふ手に花つむ霜のおちてなりか　同
初さ霜に木葉ぬとときはらしかな　同
初さ霜ありわしーをとつる木葉哉　同
冬もまさりての無去も乃木葉の那　同
春雨の深しまもなきおちもりか　同
雨とのをちりしをさきのさき梢も哉　同
くちぢ葉まてなををあたくねんかれ　同
いろ梢は野や山ぬめ乃をてあるを　同
わき霜乃くち葉よかなる手入うか　同
冬さ深まかくれた山のくちその那　同

あき乃葉持水草にさき河へりかな　同

追りせぬまさ礼木乃もれ秘出かれ　同

もみぢをて風ハ初さまる木葉哉　同

花かりのそとふえを波乃こ乃もかれ　宵伯

ちくらめや時雨をみ添乃下をみち　同

河内弟延寺にて

そめしまかちるや木礼染の村時雨　同

いろこ紀ハちゆをさそふ紅葉哉　同

非無月ちりかひ乃ころもみぢかれ　同

河州一文の會ニ

散てしくもみぢやこころの錦　同

まろや霜をうちを四方乃朝ほうし　同

箕面山にて

冬こ紀やうしろをみちる滝山かな　同

猪やふれわちむしろ礼夕かぜし　同

まろまとを風をわきけん木葉かれ　同

山寺に侍し會ニ

ちりちりすこころそむ山礼木葉哉　同

草庵にて

木乃もゆへ音せぬ庵の内ふへかな　同

のちせ山にて

かせやかろ月に落ちれのちせや庵　同

吹まよふ上はくちものあさあらし　同

兵庫津にて

みさ浪よふかしの木影にそ千鳥　同

摂州ミそくぬよ佃村江戸佃しみ

あそり江ありちらや紅葉の村本の紀　同

自筆寄う帰依て乃冬観世音乃名号を

うしろに書ての連哥にて

名やハ世ま枯葉もおしき木隠の的　同

ちりかゝるさてやもみぢぬ峯の松　宗[illegible]

うせ吹ハそよまちく木乃も哉　同

とりくこし雪ち洞んかさき紅葉　同

秋　雲月をうちせ紀へぬ水をあし　同

たつゝ杦尾濃坊にて

散ちりすそくちにみけれいりか哉　同

谷かせ乃みれあけくをる木葉のれ　同

永閑老母追善頌文

にさる河へ河ら逢もくその紅葉哉　同

月をみれは紅葉ちりのふ木乃間りかし　宗牧

そよとしもみけをあらし〻木葉哉　同

もみちもをむそいぬ滝川糸をあし　同

ちるてちる露のるとおしうす紅葉　同

流幣ちりあしきおりかく紅葉のれ　同

ちる里は錦す門を紅葉の千入の郷　同
あさきより水をいろこき落しかれ　同
木からしハ梢をまきれ夕附日　同
木葉にもとかくうましきたちも哉　同
もみちもれかれ冬晴り木葉かれ　同
散にれやそめ流く山のむかう紅葉　同
花をさん言の乃ゆきちる紅葉かな　同
ひろふまていろこ貴寢れ梢も哉　同
散乃ころ一きやうせ乃志るさかみち　同
散てなほこけの志るし照るちるかな　周佳
紅葉ものふゆれ一むかう紀を哉し　同

神を志れちしぬはぬ川の紅葉哉　同
散ちてもやはうの花そめ神無月　昌体
山水れおちてもやいろもふさあれり　同
草庵月次始
をとつハ木葉志くれの瀬戸かな　同
山濱長孝お陣所にて
月の色も落葉す事の紀さ山かな　同
次摩若木勝乃りとほく
ちるもはや花やわつきの下もみち　同
勝州山田是代散次乱率退菩奥りの
会にて九月十日忌日冬

こし路も菊にくちきのしづくかな　同

閏月

のせよけて波を木の葉の舟　閏月　同

いろさへて下草あをき落葉かな　宗粮

枝ちるも清く根に帰る花の木葉かな　同

そよくちも散りに遅やうすもみぢ　同

行水のうき雲を紀落んかな　同

深を紀し時雨とかへもこの木哉　同

峯晴てふる水くもりおちもみれ　同

川門あら遠清もらもゆ川の下紅葉　同

山おもはあとハ分てくちなの山路の鄙　同

花は見し世残りや河の紅葉哉　同

橋ありし霜むら河と分りて瀬落ちも哉　紹巴

秋むしろちりの流るくすもみぢの哉　同

散かけは紅葉をてふくいろかかれ　同

ちりおちれ木のまなしやは下紅葉　同

おち川しも柳も人も水の下もの哉　同

河きの霜の清くよ柳も荻おちも哉　同

ゆきまよふ道見しそむる待てかな　同

落もしてまとは入河の木間かな　同

落もしていろをを紀木の冬寄のれ　同

紅葉をも花なきちりつけ竜田河　同

霜かれ上におらたる更くるよしきれし　同

山の月おち葉にくまきうちかかし　同

汲人乃あとも古井乃おちてかれ　同

雪よちらもうちや山れ志のふすり　同

なてあさ嵐とうし見の落はゝ的　同

おちはまやなきをゆく道れかり見んお月　同

おち葉しくあうまれ出づ梢の那　同

ちりかゝれりらちやりせ状もし植　同

をうちまれ紅葉も志川むつれ　同

うれのかれ散谷かせ乃志さりみち　同

せにかのそ木葉も水乃てこるつ　同

ちりてきくめをあやまたれの紅葉哉　同

山やゆきおちまれ音乃あきさ志のり　同

落葉してこけ寸蓄おうさくれのれ　同

落葉して下枝やりの中宿り　同

そろみもり私はあしのさえ哉　同

志ろさ水のよとを流見まる紅葉かな　同

人をさまたしむいをろきをうち哉　同

さそりなに月はおちまれ木間のき　同

年へつゝをとふ線乃さそ木葉のれ　同

紅葉のりうりまと菩乃みるまりか　同

枝葉や木乃葉を海へ山をろし　同

枝を葉もくち木に風れて魚ハなし　同

木のもぬむ河とハ那をも山路かな　同

さよ時雨志たく音なきおちもりかな　同

霜枯もまれふめはばとしわろ木葉かな　同

ちりぬまハ池にそこなる紅葉の錦　同

木乃葉ちるけしやかてもれ雨宿り　同

木のしたの道をはしりそくちは哉　同

も綱乃まめのおちもつ庭ハ霜のあし　同

月のけをおちをそよく落路のれ　同

こほれは水をわふちの風乃ゆく魚哉　昌叱

昌休廿五年

なる里や下て見みくを世にまくちも哉　同

ちるすなよ紅葉を幣の夕あらし　同

木枯をとま治る々世のおち葉かな　同

柳さくの秋るをいさめ清く流も哉　心前

水もなくこゆるハいけの木葉のれ　玄仍

宗真奥引

みちらふを散るひくれる紅葉の錦　同

木枯

木からしと庭まくみえねとろち哉

木からしやさそひぬるも紀の下紅葉

こからしの庭ハ紅葉乃千種かな　宗祇

木からしりけハもみちの庵かな　同

木からしにことゝ色ハ葉守乃神もなし　同

木からしに吹まつ菊苑のあらしかな　同

白河のせきにて

木からしに思ふ都乃青葉かな　同

木からしにわくや下葉の松乃風　同

播州曽祢といふ所にて松乃古木

をとゝて

陰高し世ハ木からしのいつも祢松　肖柏

木からしの中ニいつくむら峯の松　宗牧

木からしの山も千入乃ひのうら哉　同

木からしゝのふハ千入の夕日かな　同

於業屋

こからしやこれそ乃こす葛の庭　昌休

越前吉持真則

風さしやとしの乃あれ千しかの都　同

木からしは松やさそひし下もみち　同

書写山龍象坊にて

木からしもありとの峯や村紅葉　同

木からしやあらそひかねて松乃風　宗碩

秋さえしあや河音けさの志を　同

朝きの霜こゝかあを水の流しきの的　同

　宝は八満まく

霜消てすゝのそくふるあさ日の光　同

とゝそふの杉あけは新霜はかり　同

河とも重ね今よりいくよ霜の松　同

霜枯へ寐すゝや万よも千代の陰　同

けさの河さき雪もまさるよ霜の松　同

雪やいかすさみさ霜のおかのすへ　同

かゝる峯霜やそれ雲まくしの舟　同

霜河さけ月よ嵐つゆ雲井すの郷　同

こちかそ秋霜に堂つ鳴ひゝさ切那　同

雲井まれく霜は六鳴わさ目の光　同

　大神　交治楽の舎あり

霜枯松河ふきをたり神ちや海　宵柏

あり浜見よ初やいをつねけさの霜　同

　外　良租田亭すて會

霜河さの湊鷲枯そ枯の鳥のかさ　同

　草庵にて

河ゝの葉は音をあら里の霜よ流　同

　海邊にて

そゝは霜よこかゝらもいく人冬は海　同

八重葎ハ霜を打たる苫やかな　同

しもをきてなほいく世ふる露の松　宗長

かせやはく霜氷はかりの水のこゑ　宗碩

ちさ鳥乃声もよはり行枯野かな　同

濃州谷汲にて

こゑや世をてらすも霜夜乃月日のかけ　同

ふえすゞり〇〇小野寺の声をよの鐘　同

月乃音さえし霜夜の明ほの　同

声も枯やかなるにかへる荻のこゑ　宗牧

神松乃木乃間霜ゆき流けかな　同

いろかへぬ世や霜も行末の松　同

霜のれも夕日あしれかなすさ哉　同

ほのかそふ霜や千代乃玉つはき　同

声もいく秋三を日もれやゝれまつ　同

花かれてたゝみん霜れましもかな　同

あさまさへ霜をく枯きの枯をかな　同

月や霜はしのうへれ行ヽの中川　同

霜ならく木からしかをきすゝき哉　同

まつ花乃その中ふ花いくへけさは霜　同

あさ霜の下草ゆをき日かけかな　同

らちうとく霜や露すなりしねゆ川　同

流れ霜岩かけ乃こけの雪りもりかな　周徒

鳴てしもを志らぬ菊の垣ね哉　昌休

尾州津嶋堀田内蔵助所望千句十一月
興行とて第一済楽

ちとせふる志るゆふ志もや神の松　同

八幡にて
ゆえ諸しけりつゝあさき霜山おろし　同

同思案之所と書給一句ニ
志もゆくへこゝろよそそこれ岩清水　同

但馬湯山にて
身は寒さ志もゆく人きふ菊出湯かれ　同

ふすく露や上毛もしらぬ今朝の霜　宗養

朝志もを花にまかしし乃日のけりの跡　同

これやこれ松乃まつ花と朝の志もを　同

折ぬ名や志もとをき志らぬ手向草　同

咲わさきそしや霜夜の河すつゝせ　紹巴

しもを白しつ霜や拂ふこともと河　同

りせ霜のとたて木あふ菊て山のか　同

けしきを山の流く霜れつゝそ哉　同

霜ろ文まてれ枯のめく冬田の跡　同

霜の花ふかりそしきやま色のをよ　同

霓まわさす稲をやらり貴妻ちれ霜　同

袖の霜とけてぬるよの中ぬもりの跡　同

志もの花おもけまそよく小休く哉　同
あさ明乃野もちみのをさ水菜かれ　同
霜とけく浅茅ひろそふ山田野かな　同
よもま人行りふもし小霜もなし　同
法の聲うそれ音まむしを表りかな　同

民部法京與行

やゝこうし道やあをみうりし乃霜　昌叱

遊君

消しのて名残す霧れ夕くかり　同
すもひろを霜れそよきて篠をなし　玄仍

冬ゝ月

月をゆくとめぬ落葉れ木すゑのかな
月を又木隠りみゆるおちもりの郷
川音の上かる月のこほりの郷
河里あけ小あらし北月の影の里哉
さゆる夜風も月となりかけり
月やけさわれてをのこる落こほり
名こそ秋霧の里あ山の月よの影
そらにさえて月もまた家く光りかな
月をさえよ月小河のあけの河さ氷

月重しくもや山のも夕しぐれ　宗祇

弥てたりの袖そゝれ月そさましぐれ　同

月てり今宵つもとえやし一しら雪　同

しぐる雁し山紫ろよくまとの月　同

月や知あかあけのよの夕しぐれ　同

降りしまくらりし時

岩ききんあしやの月の夕時雨　同

月落しもりし枯のしく夕しぐれ　同

音羽ぞそともみゝも月すゑし山の端　同

浮のかけつきぬらさとの高根の都　同

月まかけしきもみさ山の河しも都　同

月まゝすつ河ゆきや秋の更夕河し　同

君河さの月をまかりぬひかりのあれ　同

月さえて光りまこゝをうつ河しかれ　同

水さえて月ゞ岩をうつ木の波か都　同

のけかし鈍あ揺りも霰ふ月の文　同

乃かりて水あかてや氷はそゝれつき　同

河さこ揺り月ハ水かぬそろかかし　同

霜すりつきまかふや華乃八重桜　同
下つくさの京あく

玉かあのこおりや月のあさおりすり　宵伯
志賀まますりつまらしちぬ

清なきや秋の小月の見えもかな　同
あけ庭まで
月寒しころ有明乃清しやうき　同
霜ふみし人の跡そ月乃綱こほり　宗長
月さむししぬ笛かけわたる磯の松　宗碩
霜いく八ゆふしてかきの夕月夜　同
よやさむきあらしをかぬ月をとし　同
つきなうゆきおろ行乃将もされ　宗牧
月より水草けむきかきねうれ　同
むら雲とられまで寒し夕月夜　同
月のけ乃むら行さむきかけ歟　同
くもれ波とばしる月れこほりうれ　同
水鳥のおやふむ月乃こほりかな　同
月そすむ世志ろ人やかりの初志くれ　同
嵐むかともあらしも月の雪吹のかな　同
そらは月おけかりさとつる秋のかれ　同
夕月よやまのも氷見えもかな　同
てる月れうつるや寒き藁人の月　周桂
うつり月よめ寒し夕あらし　同
わく風れともすり寒し霜の月　昌休
さえまけりむく山の端れ霜の月　同
奠位統後入道奥切

霧ちて月もこよまのこゑやかな　同

吉河具行

うけも月むら雲さゆき見えもうかな　同

山のもれ月もくもまやむら志ぐれ　同

かけい月こかりもいくぬ木間の霧　同

立野孫六とて執筆なとし給ける人

まて

月雪のきしやともりふ夕かな　同

子益とて良喜紀伊守具則

月みよとさえくさも秋のあさ津風　同

秋夜の月志ろき雲そふ山路かな　同

氷くて菊こそりける月の立てきつれ　宗養

霧やゆき河のつきやとの月をかし　同

月ふろ家所ゆや雲かくもの中河　同

そうけて江の水さむし中ふ月よ　紹巴

雪や川われとうら人れ月乃母も　同

み孫乃袁志てそやゆ夜の夕月秋　同

月よかりこかりせわうろ雲井のれ　同

月のゆきかもらふを白し松の雪　同

うけさむしそうや水ゆく夕月秋　同

小ゆなうら秋の川月の松まうの霧　同

夕月秋志くれてうちもく光けかな　同

時雨きて山はもちりし夕月夜　同

ほうりわき瓦氷のうへの夜もすがら月　同

雪ふりくと後山ちらし夜半の月　同

月さゆるいろハ畜明き河らしの声　同

大江やまこえて里の寺の月夜りかな　同

本切らしの月よ山紀入のりの里の方　同

そらにみつ霜こそひかりの月よ　同

霜みちて河里あけうるしおし月夜　同

寺の人のこる語ヲ月堂時雨あり哉　同

月のゆく沖中川やうさあはり　同

ゆきハ月のむかう城ちるそ鐘の音　冨心

月のうちよせのこゑ虚しし河原風　同

一重つゝつ霜雪つもるこそうつりけれ　同

みるかゆふ月ハ下ゆくこほりかれ　同

まつ風ハ月雪乃よのをしきかな　同

舟遊は月よ昔ひしく川とおもうかれ　同

小蝕十月十五夜　同　於照高院殿

ふくきよりくるさや月乃まよ時雨　同

寒草

秋ある後まで紀よのくる枯野の風

つゝみ里河音さむし茅ふくの郷
あさ露の草もうらみす日のゆけ哉
陰青しけり木かくしれ遅き草
種やかゝる山の草のなき松のはけ
秋を重くつゆはいまのしおもし哉　宗祇
あはれいかにこゝろの冬の千種のかれ　同
かくるなれは枯野ハゆめの千種かれ　同
清水すゝむ山のおくさあたり岩根かな　同
志をも枯や河きは垂てのむしのよき　肖柏
露とめて志のゝも草の枯野のかれ　宗牧
冬のれを籬のえなきや野べのつゆ　昌休

夕日かけ枯野や志をとわきれ哉　宗養
名をもしらぬ河さ霜のふる姿さしを哉　同
なまめかしね草をめてや立枯れのかれ　同
あらき霜の志けく冬枯くかさちかな　同
冬の寒き色りいろかくすゝき哉　紹巴
枯のこゝ行あとのあとやゆふ月夜　同
かよひくみちふも跡有あさちかな　同
のまぬ根をとらされまゝすみ遠れ松　同
みけや水冬野の草のみのこり　同
かきなくもいはく浅ちのすゝの跡　同
冬枯て水草たちの河へかれ　同

冬ふかきの旅す入来ぬかつみちを覚　同

かるかやも霜乃こゝさぬ冬かれの野　同

冬草乃かけひろく野のすゝき哉　同

志のふ草なきてとしめし跡のはし　同

忘草とむすふもはかなき冬野かな　同

わさくの根本の紀櫨は冬かれのかな　昌叱

心前三回忌

さふ河も石のれぬ志ゐふの前の原　同

氷

あわてもり水をすくなき泉かくれ　同

滝乃をとは氷らぬ松乃ゆふしのひ　同

ふきむすふ河かせあらき氷の水　同

山水は氷りかくはゝ木乃まくれ　同

氷らめや山をあさ日の出るを川　同

氷は流しゆくしまのくるまの露　同

ぬ網みるや寒しきはわけはうも氷　同

いまみる氷こそは山のふもとのこゝろ　同

世くるかを氷す経つゝれ哉　家祐

ふるや雨水かきまぜのゆきこほり　同

夕月よやまてまし水の洞こほり　同

うは氷いはかゆく岩瀬ちろゝうれ　同

ふるや月わともこほりの胴切ても　同

うき水とりて見まほしきかて見うか　同

一とせはみつゝ水のうて見切那　同

らきとこ見はこほりぬ水の心か那　同

氷より引眉かゝしふ紀の川と　同

渡れよの河音もなし胴こほり　同

河音はなしてのころ水のされ　同

かもしさへ霜ふりてほうぬる山のか　同

氷つらゝ瀧のこゑかなむ冬れやま　同

山もゆきいくへ河のうすこほり里　同

小野社千句連哥

かつりぬ氷やいくへかさ座川　同

有間湯山而しての會に

氷こほる岩ねあやしき出湯のそれ　同

兵庫にて

うつ波をこほりをおしめみなと河　宵伯

河流れわきちかつめ潟あほり　宗碩

瀧上の河もしやふもとのかはこほり　同

いく一重羽やておりし何まま水　同

高潟清水寺

神や清水なり露しおきこほり　同

月乃江みしまや山のしおさこほり　同

志らいとも波むすふや氷の凍氷り　宗頼

江乃こゑをけさうすゞひの汀哉　同

年なきに散り凍りて冬泥氷の船　同

こほりめや泥さわをむすふ清の水　同

あし流れうすらひまよふ枯間哉　同

月波あしをよむすふ氷りの船　同

せきかへ紙や氷らぬふちこゝを　同

鳥乃羽やむすふぬ水のはさこほり　同

ね月散けさまて水れこほりのれ　同

わくらせもいつくやも河朔こふ里　同

お杏根

氷りさゝ落をとりかつ水草かれ　昌体

四給唐器へ道具も雨ふりぬ吹て

澤苗河へ亭ふく

みなとめん水のせきをも氷りの舟　同

山深まて

河なみやこほりてつくろまけ川の風　同

うはこほり末葉よむすふ水草の氷　同

よる浪の数ゆへみなこほりのれ　宗養

落かゝり水草まつこく日のけ哉　同

山の井乃浅くもうせぬ氷りつれ　同

氷りかよ玉もすりあそふすかの海　同

紅葉をやせきとりに水の流さかり　紹巴

河内もこほらぬ谷の木末なれ　同

氷流し河音つふみ孫乃中川　同

ぬる鳥の跡や河々まなこあかり　同

江乃声乃こえぬや羽乃翅こほり　同

うち麓せやけさうもちひ乃一よ河　同

河つゝきは波を氷角の井流くみそ　同

氷わけて折しよりよりもの紀かのまゝ哉　同

さえし水をもり青かきやいさこなかり　同

とめえぬ紀筆すゝ氷らぬまくり哉　同

石河や玉すゝをのけは氷りつれ　同

くしそこをこなゝぬあるの岩男哉　同

のみかしをくたゝぬ中まや翅氷り　同

月いって河つゝきろき水のかの船　同

ふむそては氷りてはふれ板井かな　同

鳥乃あとさゝりなかりを翅こほり　同

見えしまこなかかこう恵の早瀬河　同

なかれゆくもうちや柳しむあさ氷　同

ふきの戸のうつかひ見まつ氷かれ　同

葦や志門ひこほりのうすみどり　同

明わたるこほりは高き川門の聲　同

河淵の音ふくとつるこほりかな　同

世乃ゝ急のたつきやこほる岸根水　同

下ゝつれこほりを告く河門の流　呂叱

洲こほりひかりさにすかの海への聲　同

よるなゝを岩頭寄てむおほりの流　同

氷かゝり水乃声のみ乃あさかなり　同

豊前お吉田法真行

こほりゆくゆく水ふせく河への流　同

遊楚館摂まて

氷らめや数かきなしすゝての乃らと　同

水そこは小こほりにも満ぬ氷里かな　玄仍

お長州豊浦宗

氷つゝとふえを水とつ凡の聲　同

お防州山口瀧法泉寺

こほりめやふれつこゝろの清の水　同

霞

朝霞とあめよ所ゝ樫乃緑のを條てる

ゆきますてもはえをとつ写くあるき哉

そゝりくみるきのきえぬ霞かな　宗祇

そらにまつさくこほりそ夜霞

玉なかれそゝく行人濱れはきこゆかな　同

さゝなみちる霞そつかむ雪乃ゆか　同

萩のした葉しをのこすはなき哉　肖柏

ちる玉にはなれゆきえてさく露かな　同

猶のこるやさくあしたき花笠やとる里　同

兼載法橋追善名号連哥

名こそ猶もあるや髪のま玉なりき　同

丹生ちまく

本願ゆゑなりきとそて乃山路乃那　同

をそりやも木葉やそのか雪ならん　同

白や雪さはらきはやまぬみね乃雲　宗碩

春木の花乃霞はもれあちらこそかな　同

むろひとくゆるはる雨の霞の的　同

玉乃をとりせん吹くしはし猪かれ　宗牧

うれ竹すれそのあてさやす霞のか　同

月雪は袖母毎のかぬなりきのか　同

大山もや諸をあはれのたまなりけれ　同

竹乃葉を波やともよきうつしき哉　同

雪れ波はしれむしるゝ山の那　同

よる波や岩とうしきの舟まなりけれ　同

むら雲は風をよそころあられかな　同

ちりもの露やさゝめく玉あられ　同

夕月影こそ定むあられ切れ　周挂

玉敷庭や名よきあられ風あられ哉　同

萩の音さけハあられふるえの秋　昌保

山風にゆれのとふえにあられかな　同

鷹　到来雪て真切

むし鳴のりすと吹野風の庭あれ　同

あられちらちらぬ雲間や夕附日　同

但馬お竹田宝素院

流れ袂をあられまし山ら哉　同

そろやいつもしつとゝしを玉霰　同

雲きり月にあれての露はあられ哉　宗糠

秋をいさむきの枯すれ玉庭あられ　同

ひろひゆくころ綺木紫のあられ哉　同

おりる音は流るゝ乃隈なきあられ　同

こぼれ江乃岩浪くさくあられかな　同

栗やあつ浅津田の玉ゆる霰かな　紹巴

流くの鼠のミ山や霰ふ庭あられ　同

霓よりやゝ人袖あられの玉すだれ　同

常しもりを庭も玉しくあられ哉　同

そろにゆく水の音清く乃玉あられ　同

玉篠の葉にすまきぬた雪のか　雲仍

佗世長刈萩はうつく雨雪

あたりよろうの世象おふあられ哉　同

前田主膳殿雨望

ふしは戸のたゝのみをおもふ霰のか　同

霙

雨すいろゆきまにこほる霙の雨

遊り消てたつの緑はつもる霙かれ　賢盛

霙せし庭もころもこほりかね　同

けふはさてきゆる雪あり見そまさ哉　家祇

水ちろは遊はみそまめかこほりかな　同

夕さ遊は松乃影白き見それのか　肖柏

見そまさせし雲白し夕月哉　宗碩

見そまさせし梅の香こふはさちえ哉　同

みそまさせし遊や青くし花の汁ゆ　宗牧

こほりふやこそまそのよく月乃庭　同

山雪見それりとうし我ゆふへのれ　同

夕日のけ消くつされはみそまさ哉　同

山寺のをそれりし白きはさ日うか　周桂

雪まのみそまさりとけそれたゆ水　同

見それせし名所の月をゆきの庭　昌休

田給庄青田隠岐守亭にて

河波ハみそれ残し雪に朔なり　同

雨まし雪とみそれまれ河さ戸かれ　宗養

雨のとしくれて志門まりこそれ哉　同

月うすみ見を残なりふる雲まよふ　同

山まつの夕風志つむ見それかな　同

月志ろき露や霙ふりまとの松　同

そらに見えて松のそのしろき霙かれ　紹巴

猿のなれうそきり向きをそ残の的　同

見それせし名所の月の朔志あり　玄仍

雪

山や雪志らぬ鳥啼見やこかな　心敬

雪落しおきてや乃ころ河さ乃風　同

深う置し時雨やあまた松乃ゆき　同

雪ふれも越までの里むらやとりよ　同

かぜおろす山まつおとし雪の庭　同

雪きれてかゝるをつけぬ山をかし　同

冴ふりぬそらに河ふ靜しみ残る雪　能阿

落まちるよそのけ所ゆかの夕かな　専順

雪と志れまつ人ハわかる中庭の庭　同

ときは山そ雪ふりつもれる間のかな　同

雪おもみをれぬ木ハみれ風ならうつるかれ　同

波てふきまさる寸ゆきは花ちるやに　賢盛

山はもりふりハ都の雪けなれ　行助

雪乃重られ乃老木にたゆまきて　同

紅葉せぬ秋をうつしゝゆき貫の松　宗和

常のみきそときはやまりとは雪の松　同

ゆきのまれ小は先ゆくうき枝のかれ　同

ときハりたぬ枯野の雪の夕の都

あられくまつかれは寿りし庭の雪

花とこそ雪ありのれ常の枝もなし

山や雪晴らぬ日つもるらやこりな

あし流るゝのうそ雪こそ河のかれ

あ紀をたえぬ浅ましゆきの夕の都

烟たちわけくわ寸筋ゝ雪の夕の都

都やはとをみちの遠方みちの行ゆきし

まれ雪ハうちふれなひはおちらそ哉

大内はやまとしつもるけさのゆき

ゆき波見ぬは風さむかりし庭のゆふ月

名もさうらぬ花こそ雪の木すゑ哉逢

山月まりとこれ壁ハ雪のあらし哉

翅さよめ雪ふり降つするころ哉

花とちるは雪のまかへ嵐風さそふ郷
峯のゆきうつをおもひいでゝ雲間のはれ
雪も積りつ遠ね山のそゝらの郷
暮りそふとこすゑやゆふへ峯の音
天津袖かりそめのゆきの雲路か郷
よせ山をとう流をあかつきこゆ茂
あし雪のもれの千種か小田川さて
雪とをし山のまゝも見ゐの遠ら
ゆきしろく氷わく管の根かな
みゆそとや松一しかのゆ蔵のまも
椎の葉みふらぬゆきえてあかし茂

をちこち景よ雪散滿し深山のはれ
志られつゝも山めぐりまそる四方は雪
岩風きし雪ふりつの谷花峯の根の郷
ふりそむる雪は人ありの紀深山のはれ
雪まれぐとは山さえも住のきさものきよ
塵そなれゆれれや千里はしづきうく見
冬の日を忘つく雪の日うらの郷
山峯の先雲も八重の川雲井か郷
しくゆかん八雲をまつし富士の雪
こぬそ雪ふけは忘るゝ山路かな
と綱こそ菊水上かゝし峯乃ゆき

氷けふ古山かと落しきよれゆき
さそか今朝松乃をろ雪かの乃うら
山やゆき木乃も吹こぬあらしかな
山はけさつもらぬ空乃みちにかな
雪は流こみぬ山乃との河さ戸かれ
まよひ猶も山ちのそてや宿れゆれ
都まてこそ濡やとく前雪のうち
雪れ宿雲井まみえしありと哉

年のまて

いくむしら山れ河さかかり

月前雪

わけつさき月と雪とのひかりかな
月あらまふらねを雪れくもれ井かれ
月かけは雪まよ里うへれこほりかな
月雪れいろはかつきりあしたかれ
月まそし出る里猶とれ峯のゆき
落しとて見やりさかる庭れゆ貴

山雪

待そらま山の日をいくか見渡の雪　宗祇
山かそへて川宿とりん峯のゆき　同
山かりや庭のかさきのやとれゆき　同
今いくの山れもうすん庭れゆき　同
南窓しくをれは流くの見渡の雪　同

後ろまで志ろ〳〵雪見やまちのかれ　同

雪まさへ山をそ見るの志られけれ　同

雪ハまさこと綿やまた落きゆふへのかれ　同

またゆりし秋ハいけされそ鶏の宿　同

ふり通ぬめ里らしや志らもみ緑の雪　同

峨りしまてちり形き雪の高根乃那　同

雪と菊と山もちりなれかくこの那　同

のけきれて夕月やうらと雪の山　同

みる人のこゝろやかくこゆきれ山　同

なくの秋やいつ迄とをらん雪のやま　同

春あれやあかりし乃本すゑゆき乃山　同

のひかりをこそや那乃雪のやま　同

越の國へおもひたちしころ

庭ハけさあそゆきつくへ河ら山　同

あとつけし雪こそ志るへ海ら山　同

志ら雪よそめ冬の山の嶺乃嶽　同

山のけハゆきや河らあけ月を那し　同

山の内のまもりし那れ雪もの那　同

山越て雪もやとさふゆそちか那　同

そてはき雪帝のきりし志ら山路のれ　同

氷色雪

氷さむし山や雪まわなすゆらん　同

水かゝていつもゆる雪の志たくつれ　同

いけもれく山水流むし雪乃うけ　同

遊ふしとけ雪もこまむろふの水　同

雪もれく川ともゆきむき山らかゝ　同

なほやらす河へ乃雪の細りしは　同

冬河乃雪のやみ積やたきのいと　同

去ゝ雪の中河わたりかし哉　同

雪ほそ積歴まと河乃つてとの郷　同

みゆのふれ山まゆちの積波乃ゆき　同

山のうけてかるよる雪の本间かまよ　同

浪乃うへ千し雪吹とむらおもし哉　同

海辺雪

松よみれ汐干をゆきの波さすかなき　同

雪かゝもいつ川まきの山をおきつなほと　同

雪やなすきまつのをあしの和田の原　同

雪の中川ひる雪浪こもよせひつれ　同

さうけ川もゆきやうく波いその水まよ　同

月前雪

みつい木ちうと雪みつのし月の庭　同

月なりうらもゆきくりうおもしさ哉　同

月乃こほりす雪まよふ河しゑうの郷　同

月哉今細ころくぬ雪のひゝゆうの郷　同

ちとりや紫羽山あらし雪の中　同

降らしより人の戸叩くなり　同

あさこさきのはけわのいつま雪の妻　同

こそれあれ花をとよか勝松のゆき　同

つもれふゝ人こそ老木松のゆき　同

竹雪

雪霊し ひとりもなひ声すし此竹　同

庭や雨のゆひ雨をなひけ窓のふけ　同

りせや来た弥に積もりけ雪の雪　同

ありよふけて生り乗雪のよの間哉　同

雪のよのきけのもとつゝ網戸かれ　同

雪

さ川雪も秋をしけさぬりこちのれ　同

冬中のき雪降人ば消ね紅葉の那　同

う化雪の木すゑをあきのちらしかず　同

なり先降くもしも雪の木末のれ　同

いつゆきの庭ハころ錦の塵をれ　同

かせや吹き荻のもゑたく雪のゑ　同

雪ぞおとをよそきよかつれ柳哉　同

いつゝ吹わしく雪の也ひうし　同

雪ふり立いつそれと切しも風のかし　同

とも網みつや何しに聞し庭の雪　同

花ハゆきゆきをたわふ木末かな　同

花ぞちる花かときけさ風ゆきの遊　同

けふまさくもの雪ちる木末かな　同

ゆ貴おつる木末ハ花乃名残かれ　同

雪ふりし花咲や木ごとにやまかつら　同

みけ毎うし都小河ふくゆきの山　同

かりしけもひとく萱木の雪をそし　同

木やいつき雪の花もやしの渡ことり　同

雪ふれて鳥の跡ふりの紀木すゑのそよ　同

鳥や跡しりまり雪かな一木すかな　同

とかれねをそらの如き雪の夕かな　同

さえさかむ雪まころ乃頭をかれ　同

今日見るやこころに分し宿の雪　同

こしより里のかわかし比　同

ちりひらし峯のゆき待ちやこかな　同

やまちみとりし柳し遊のゆき　同

世後花らやつをも稀も落付木くの音　同

木末乃やの玉み門の雪しの底　同

庵室にしての舎に

ととめえね爪木やふりゆきの宿　同

雪ふりし又ふれ玉乃ちかりかな　同

あと雪の三日まやのころもし紅葉　宵柏

槐林寺にて

散雪も梅しめしけ木の下かけち　同

有馬湯山にて宗祇宗長三人せし

連哥に

うも里に木の葉いろこき山路の秋　同

あろとこし河しの花やけさの雪　同

ゆきいつくちるも雁の羽吹かぜ　同

うかひも里にふるむ雪の夕かの的　同

しら雲は那やりみ孫は雪　同

人にかへりて

いさよふもさそひし雲のゆきの峯　同

玉河の山はきめく

ふ夜さうのは雪も名あり杉の山へ哉　同

宿吉にて

まさしけさも浦里との峯の雪　同

雨夜はれそり平正頼城にて

雪はかさとは山青し紀伊のうを　同

宿吉にての會に

うす雪はこゑうちそくよまつの風　同

かせをなしたり雪のはみなの松　同

藤原元親亭にて

済し夜の月をやまちかねけさの雪　同

ちりてはな咲や草も木のけさの雪　同

待らし枯もふかゝれけりさ乃ゆふへ　同

此なりしあそ雪つもりしむかしは　同

よるそらんねおくやゆきのむら拍　同

いつし根まつ小草を雪にまかさ哉　同

萩原正孫亭にて

山水すゝゆきのつゝみく木間のかれ　同

正盛亭千句連哥于

ふりそふと見えもろ庭すゝゆふへの花　同

長湖まて侍し會ニ

浦のけてふりつゝ雪乃かゝるまそあれ　同

分て見も山やうにゆきみ狩乃やま月　同

壹岐國へくたさ為人乃せむし會ニ　同

雪まれくなかへるあさ乃船らうか　同

汐やの中山まりうひこそ

行こひこしうひの白根よ絹乃雪　同

待やふれゆきこそ四方は下明乃春　同

近江入道宗楊悼の連哥ニ

帰りしせ雪すゝ友かへりの契　同

十月一日能登まて

秋そらん北のにしあらハ峯汐の雪　宗碩

八雲立つ浮そふやあらしら雪ふくれ　同

今朝う知らぬ宿もふよう乃ゆき　同

賀州にて

苔宿をゆ紀とかしこいりての加那　同

府中にて

いたかさといひし越雪れ山路のれ　同

敦賀にて

雪越乃せて松に山のゆくわし哉　同

濱松のそうれゆきみうすさこの家　同

追善名号千句いたりし越

ゆきみんなの世にしあらハ今朝の雪　同

わさつ海の手向れもれかなさ乃雪　同

と越潟の雪まとわろうちて家の筋　同

山よりいつ名さて此松にけさの雪　同

志ろかん乃千入やゆふへゆきれ遠　同

すゞ門に流とをする雪のなきさの跡　同

下そよく梅し紫さむし宗乃雪　同

明ぬなかりいつくけりりのこの雪　同

邦いつこまちえて物を岑のゆき　同

いれむすふ雪に志つのするの山田かな　同

二葉より雪もつうしやとのすゞ門　同

見つめつれ生てふをまの今朝の雪　同

九州人　眞則

松出さん山乃はしや雪も仏ゆき　同

麦まけさ河しとおもふゆき哉　同

神松の手向してふりけさの雪　同

まさ行し人かくしけり庭の雪　同

小國下向人餞別に

雪まて弱風りいそくむやまちりかな　同

依新法楽に

ねさとおるゆきや竜ま里たひけ山　同

いかはりの河上たりのし雪の寒　同

そゆ義かる山や世代へて小松なる　同

二葉よりつもるもいく世ゆきの松　同

うへかえて雲井すと雪の山路かれ　家松

松風の雪はめくるとまつへの郷　同

ゆきもれて山はへ波乃千さとりかな　同

年月のつもりやいそくゆきの友　同

雪いくへさてさしもしの木末かな　同

月雪のあそびりあくる酒へかれ　同

あとや雪し夜きよときるうさ宿り　同

とせ山の雪みまさ狭し洞戸かれ　同

雪もけさうち花もるる河きとなし　同

かけきやも去らるし雲のみ綠の雪　同

雪そ花むくをさえ草れやとの松　同

見しやいほ武里人ありけさの雪　同

名をしらぬ古山に雪の木末かな　同

雉子散野や花すゝきのかれあさ　同

をれ雪の松の気おしめ羽わし　同

ゆきふりて候ふそろ木末ゝすかな　同

雪をけさ老木のもとの志ほくかな　同

ふりそふやいつかさまれば雪の庭　同

てられたれもそさはなるへ雪の松　同

波間にあわみし山のもの今朝のゆき　同

山とぱし雪を初そ江の夕月よ　同

りふ座さそこう絵の跡をみよの雪　同

山の世をふえく雪の朝戸か郷　同

雪そ花うへし木草の冬こもり　同

妻女もいさちるゆきのやる気かな　同

雪も今朝ふりさけ峯のふもと哉　同

雪それていそなき高花ありかな　同

はるの気は玉ちる雪の志けくかな　同

冬こそと月見もゆきの中へかな　同

いつよみくさるのふうて雪の松　同

越らすおいさやまをこすの庵のゆき　同

たつおもそ雪やぬふてふ笠やとり　同

花は香もゆふしのつくの嶺のゆき　同

雪まろけそこら女を乱す声男の子　同
梅りわすら雪にて山鳥のおのへかな　同
わさつらきのかはしの花の雪のなし　同
しかうせの雪やゆきころ立むかし　同
花ひともいふまて雪の木すのきのれ　同
よるの春なすのまくゆきふれ木すの薄哉　同
雲水を雪ふりもれさうわしさいふ春　同

於南都　中坊

梅ゆなりし伴韵は花乃雲井の都　同
春風はうつひを雪ふれやあ負のすま　同
ふりを済め雪こそいその草葉哉　同
雪を読ばすし隣ゆ花のしをねく都　同
ことを山はえしやうらみん遊れゆ負　同
雪そらうさしやころろ乃花くもり　同
吉山本乃中ゆをたつし雪れ松　同
雪はみよあ紀やうく里くうす紫　同
あけそむる天のいはし戸のと網乃雪　同
ふるか泊ありあふらちの宿り哉　同
白根しや八重あられく几今朝は雪　同

壬十月

今日こそや雪まくそし菊さうし時雨　同
咲まと綫え梅しぬ雪みる都かれ　周桂

雪は上乃あさ日まてよふ河のかな　同

今朝の雪世にもこえしちの高根かな　同

そこりや雪ゆるちれみ経乃薄くをり　同

つもり世をきたふのをまり松乃雪　同

けさのまのちる雪うくの池かなし　同

うけとをさ雪あらむ山はさもの船　同

うけそくよ那に雪は中ふ見ゆ紀　同

雪やちる音をまとをれよるのあめ　昌休

山は雪志つの窓書かくす夕の那し　同

かけに見て雪を木すゑ乃あさき哉　同

まつ乃雪まつ志つ涙のしつえ哉　同

なかめこしいつくの向根雪方乃雪　同

みわ日をやらん里那乃富士の雪　同

いつもとは雪みと紀も本乃紫山哉　同

餞別として示雪

名残のまきやかへりあしちの峯の雪　同

敦賀お御影堂

雪もけさりへみいれり渇ねかれ　同

松乃葉もみえてをつれけさの雪　同

誕生日出て興行

生そめてゆきの種とうちよ乃まつ　同

庭前松なしある立示まそ

庭くらんあれのともつ書は琴の雪　同

春ちる貴ゆきうたゞ孫の詞さ附曰　同

　みちのなすのゆきの朔奥刂

ゆき落しちるやあけかさ庭れ松　同

　栄丹後守與行

つもる雪を千歳ゆるうけや雪れ竹　同

　竹田安積巻法守

よその雪瀬戸へながれあさきられ　同

下村のあさやきさしをゆれのまて　同

　播州へ年の里越路次郎子畑へ道

亭にまて来一村し會ニ

法師をやられ足山路ゆきもふし　同

春ちるし村の小夜氷み孫乃ゆれ　同

　船中祈祷して

山をけさ梅りつむ雪乃かれちられ　同

ゆき落ばうきそや老をすけれこゑ　同

　唐船帰朔法承ニ

うら錦かゝりてあさやみの乃雪　同

　年内遊暮として

松のせやあらてしつら里ゆきれ庭　同

花や雪あれまハとられ何ともかし　同

更ぬめり雪やきれ問れさまあし　同

あらそむかけさゝ小雪花ミ苔の路　宗養
雪ゆれて木のまもる〻網目の路　同
河波も峯こす雪の網戸かな　同
よ川雪もこけに積りけき網目かれ　同
雪ふりちれ檜原ふりくるあさ嵐　同
大山本乃中州名木らし雪の松　同
ゆけあし毎ともおすのさに冬花雪　同
雪やこれ又うへもなき見孫の末川　同
うは雪にもつれを根に陶く栗か那　同
雪に生は歯つもちしせ乃二葉の那　同
おりくる雪をやうけむ窓の竹　同
雪ふり瀧河けれの身とらし夕ぐれ　同
む笛くまとそふふの河ゆし松乃雪　同
るすて見はゆきさえ花乃こやこうれ　同
ゆめの哀のたきりり廣し雪花瀧　同
つもりよや年にあかゝゆらゆ紅の契　同
ちし葉らの山はくれ里今朝は雪　同
あふ世とも雲分や花そのけさは雪　同
山かゝし松乃たつ雪をそまみち　同
雪にみよゆやのへまてうちかくち　同

山雪

たきの書雪よりり落て麻手まを可　紹巴

山や雪あさ日乃うへ乃うすくもり 同

うつしへく網戸やみ錦乃雪見まつ 同

山や雪こすれ志ほくはよる乃こゝろ 同

常ととも河雪はそれさつ木間の郷 同

さつ乃山雪見ふつうちあとを列 同

世にあそや雪のこ山見とりのこゝろ 同

ゝ浅山見雪浅りきぬるのきえつゝ 同

雪ふし的くやせつつゆくと山哉 同

夢想

風あまをけりふか方の梅し乃雪 同

戦ふ川もやそらくゆき乃も山かな 同

山や雪いきもきつらへ乃さよあらを 同

山しもをすくかう道乃みねに乃形 同

庭ふし網雲井みちりし雪の山 同

岩見戸やあけてをともんゆきの友 同

吉山本もあくつ網戸やゆき見竹 同

同しまきゆんの雪消へふりし雪見嶽 同

をこうちすや山ら如きあしゆ払の裡 同

竹乃葉の志ほくやみすり琴の雪 同

浅のこゝろきてしや志らふゆ貴け山 同

河あぐ音さつ他やゆきの深山のせ 同

山しくをわきれはけりかゆきその庭 同

岩谷もしろゆき分むやまぢかな　同
篠かける音さや入江の蘆のゆき　同
ふみわけし跡見えぬやも雪の峯　同
杣人のやどやをちこち峯の雪　同
山しろの雪を清くるやこの的　同
那がめ入に思ふ雪の舞やうしろの山　同
雪はれくもはし夜ふけ河のなれ　同
ともに鴻の雪状秋かけ乃中まか　同
雪まけ舘のうちふゑ雪れ紀　同

雪

雪乎花菊にさきけくそのふかな　同

一本とうへ分しし雪折木すゑかな　同
ゆきまわけて弟跡乃日長きかな　同
名はきゝやも一本のゆきの花をちらち　同
まれにふ河もとを雪花薄ちかな　同
初雪花こえ男称ま出けむらぬの葉　同
むらち乃霰雪の音清く河瀬のか　同
ゆきもけさことしめき雨乃村そめか　同
こけをふりかしむ庭に跡をつし　同
雪やしろ蓋ゑふやとのまりのかせ　同
道ふみえぬいまころもん雪花とを　同
雪ふりまさり積くる竹折れうてな哉　同

むら雪は消まさぬ人の刈かな　同
あとつけぬこゝろは足ゑん雪の庭　同
ま日にゑ雪のうつりゆふべかな　同
むね秋にこのひもてしやゆきの友　同
なすひき合く一面外やゆき乃行　同
つき雪に衣をきまもゆき乃里のれ　同
むら雪をうつ見をつくね叙気のれ　同
こゝゑとさん思ひ出るや雪の末　同
あらくかる未来やゆき比落る里　同
雪おしつ逢て風を関入こやこの郷　同
年くれにとふ跡うつむ雪かな　同

春またて雪ぞのさそやあさぐもり　同
なよひ咲そひく根を跳やゆきの行　同
とば清の雪や衣ゆ日の見おろし　同
ゆ来やなば豊年乃しるしゆき　同
天地をひとつにすし雪乃ひろまりかな　同
うつし恵やこしうつきの松乃雪　同
寂しくもみすそふ雪はもやしの的　同
さふ人のかへらそつまよ雪はくま　同
古木は枝に雪乃みつくや乃折もかな　同
花わ人をとにも来かれやゆきは庭　同
のとりなる世や出て行の窓は雪　同

あれ後の雪は千さとをこゆるかれ　同

こゝ迄ハしてみえぬや御身乃朝烏　同

まかなすハ花とかみえそあまの雪　同

今宵乃戸を瑳やつもるは窓乃ゆ紀　同

あも雪もこかまをもかさき出なかれ　同

見世りやとぬきしをゆそか神の雪　同

雪もやくゆもらんとみる夜きて哉　同

そそてぬ迄てむろふやゆきの下紅葉　同

道は見らまうふて流るりを見雪式　同

乃もふ形乃こゝろや常似雪は友　同

あけ方のゆきやつまもりふ後猶　同

はしらう弥浪やまめうの那人の雪　同

朝鳥ありぬ雪のあの葉やそしれ雪　同

松のけまなひきそひゆかゆ行の舟　同

疎花面ハ老御身すらゆう紅葉のかれ　同

いれくきと雪花わらうそ澤田の鄕　同

同人ありう見をかしや雪花宿　同

朝日さして起のへりき里雪花仿　同

雪もなは見やこなうき里迄の玄門　同

皆ふきくゆきうやあのもみこの里　同

ゆくて見よ月かれよなをまとの雪　同

ましたるき板戸や雪花さよあらし　同

まつ風の雨ふりね起やもつみゆき　同
あけぬとてりくつもいらぬよ雪の友　同
ゆきかきし道はまよはし雪の宿　同
きくの香もうづまでつもれ雪の庭　同
明き跡やうつゝまきまく野への雪　同
なよ竹はゆき折れの音もなかりけり　昌叱
松の葉もゆき成ことしの花のため　同
ふりうつむ木末はゆきの山路かな　同
花も木ははるもきを雪の立枝かな　同
千歳ふく河とあさかよ今朝の雪　同
跡かきをこゝろもゆきの志かる哉　同

つもれかし道はますとも我も雪　同
ふりそそてもりてはふかん雪の宿　同
深山木をゆきみれあれとれ草もそ　同
雪は清く平地立峯は木末の的　同
ふり清めも雪清く松乃ことゝもりけれ　同
さそひきくかせか郷そゆきに竹　同
こゝかくきよわしや惜ひけさの雪　同
　ひさ天至まて
ゆきはけさ松さへ成はつきのか　同
雪ふり竹かひき起郎かせりけり　同
老木さへさむしきうや松の雪　同

祈祷千人

つきつきて花も盛もいくとせ迄れまつ　同

とりうみる色かの外の春の雪　同

心前追善

世はしめてそれをかきの雪乃友　同

追善

何迄て上世もおもゆ貴れ朝かれ　同

うし雪の下行まりの河かし切れ　同

雪とれく行　水とほさす忠聖乃跡　同

小野一奉之造営して山中山城守

お草庵奥州葛城一言主神也

葛城の神やもほらんよもその雪き　同

華の志らされみちもうりまん雪を見　心前

吹ハそしに雪を吉ようわしのれ　玄仍

雪打りし又うつりはうまりのこゑ　同

お藝彩寺

塵の世をうつめうゆ行のおしさ哉　同

お防州山口

冬の行く山くち志りさきゆきのれ　同

長門萩新城之會ニ

志ら雪ハ岩をとかつ菊こる色の花　同

遠江濱松宿

雪ふりて波も濱名のけしきかな　同

　しほ越にて

花かとて越ちのゆきやよし乃山ま　同

初雁

雁乃し本雨紀ぬもこえつゆきの峯

こゑをし翅やゆきの河まつらか

かり落てみ猶乃ゆきちる汀かれ　宗碩

かり里のねくら冬草ふけ給流ゝそ哉へ　同

雪ふりてかり羨を身のむの浦へかれ　同

雪ふれ上れかり北つも河や筆のあと　昌叱

水鳥

付鴛千鳥

荻や河むきとりの音せぬ水をかし
夕霜すりひまなきとしの羽音哉　宗祇
としのねる木末はちかきこゑかな哉　同
こゑする鴛も木末はとしの浮鳥の聲　同
まつ風のこゑや八千代の友千鳥　同
波寄る池ゆきをつもれのくさまくら　肖柏
ゆく千鳥八とせ一こゑもまたひとし　同
めも河やよ見かなしをしの友孫哉　宗牧
河さ立をとし帰いそ乃藤ねの聲　同

水鳥はおりふしへかゆやのうきをのか　同
けふそとふ聲りわくその友ちとり　同
千鳥帰り浪や河きゆくいさや河　同
うらかきく佐よやいつき友千鳥　同
浪とめよ庭もなしゆふのいそちとり　同
いく八千世君いてひ浦いそちとり　同
秋し冬と中河かけしさよ千鳥　同
さくやいつまとし鴨水の河や鑑　周桂
友らとらちをしくみつん八千世か　同
鳥はあとうはくれなひや声をと河　昌休
夕浪をうへ花ゆかれう来孫の聲　同

こゑもなし若水汲し河千どり　同

敦賀にて

月やよもすがらわたりする河千鳥　同

風ふけも木末もをしれう花ね哉　宗養

ちどり鳴うしろ姿やなかりけし　同

こがらしきや水れ上りそまちどり　同

うつらふ夕日やそのかとを衛　同

夕千鳥水のうへ見こゑかうれ　紹巴

をしれ水く床定まらね河あかりか　同

きくやいつ名らくぬ中の夜千鳥　同

豆の人まし月すしとわたる鴻うら里　同

月すゑも河をわたりハわまた夜千鳥　同

汲の世や聴うしこえ水ん河千どり　同

雪は声きてかき○をまさよあるを　同

秋やふくはまうつ予遊し河千鳥　同

河かしを賞かひよにゆか村千鳥　同

と続けの汲聴りやそうの夜千どり　同

妻かしま鳴こゑのかしそ泳らどり　同

夜かしになく声のかしきよらどり　同

淺ちどりの千すかきとむる汀うれ　昌叱

さよちどり月の上り をききもなか　同

下問か遊清亭衛れある游絵硯翁

閑とて前里
ちと里なく契やさしきの筆のうへ　同

炉火

埋火はわすれ草ゆきのあさ戸かれ　宗祇
うづみ火のかさね枝梅咲く折てゝかれ　同
ほのまゝかゑ
うづみ火にほく昔のまゝ　宗牧
埋火にさむさをわけし雪もなし　同
うづみ火に山ふところの寂寥かな　昌休
庭に冬咲つゝじ花とて
うづみ火や木の下たりし冬の花　同
うづみ火のさらぬ宿を尋ひもなし　宗養
うつみ火にひつくあふきや雪の宿　紹巴

戸さし世よりつゝひらりと雪乃竹　仙

神楽

うたふよや星をかつき乃松の雪　宗祇

志も更く星乃こゑ也む雲井かな　聴雪

きめかよ乃月ゆきうたふ雲井かれ　肖柏

うたふよのこてそらさゆる霜の声　宗碩

神の奏楽や万代かけてこゑそろふ　宗牧

神き草に声うちそふ神楽の声　周桂

むしのよを白ゆふ乃まし火かな　宗養

うたふよの霜にこゑさ雲井かれ　紹巴

霜に声見津んそれ神すゝし

さよりちるあふりおちむ雲井哉　同

酌酒は夜のや萱のしきよりくる　同

すかすかる人丸ころや神のちる　同

あけぬるの夜もやうる乃さ夜神楽　同

里人も毛そ人夜里か神かくら　同

岩戸明しそらは霜垂さ夜神楽　昌叱

早梅

香こそ梅年くれ行の霜まと　能阿

冬ゆくやひとへころ乃むめは花　專順

摘さりきて花まつ待つ花をそりかし　賢盛

花とみるむめの雪まし山の名もれ

まじや春一もれさけれやられもみえ

春またてのうらも梅れこそその部

梅かゝく今いくかあるハ四方代春

年のゆよ行くハこれ花一本のみれ

こぬ春もこてふるみる里梅の花

一むを山中行く梅れさらの里か部

りとしをこころや乃こす梅の色

雪ふるるへ江乃とりしむめにされ

ま春てさけ梅のもも毎の春むめの花

ゆくは春まつらとやしれ梅れられ
さ貴いてし冬あをりをなゆきの花　宗祇
人まこも冬そ行の末しやとれ梅　同
折とし先ゆきを分ゆ趣こそ新のもろ　同
ゆきや梅こゝれ花さの無あくをさし　同
雪ふりのさうせてや見んゆきの花　同
雪まり梅春をともとの匂る枝の昨　同
春まし雪れさのもろむめれをか　同
梅さけはゆをこゝろね汁のか　同
冬半の比より梅のわま〇く開ける
やし

ゆくとしや春ともしまん梅乃はか　同
ことしく梅はけるやいさと紀ゆきの宮　同
すかひおてたろふそてゆすて雪れ梅　同
波ふそふけりかそて梅そやとの春　同
来ぬ春まさら枝ハみえよややの梅　同
咲てまて春やいそうんゆ先のまれ　同
波ふれしと梅すやいそく花の春　同
まさく見よ梅ちらぬなすまか花乃春　同
梅の香にまゆ紙咲て守わしつ跡　同
雪ふり梅咲こそ年乃うち野うか　同
梅さけも年も本すゑは成けにあ　同

年にみえてゆく世をくらせ宿れ梅　同

匂へむめられゆく後ふん花乃まく　同

梅さけと冬草あをむの紀縁のまよ　宵拍

冬より春へ如もむ紀をみきハの分　同

梅のえもまるてさきとやまくの水　同

小野まく

あらしとき冬とうちふけむめれ花　同

雪ぬはゆめま月ひようけむ冬雪のれ　同

けりをまつそし燒なきし梅のまか　同

むめ乃花られてあとしのま月ひ哉　同

咲てらとも年ハ初日まし梅れ花　同

お紀や春まちいてうかれ乃やとの梅　宗碩

けりか冬の梅はくむらの夕月数　同

十二月晦日

あまひあん春やまち人やとれむ紀　同

冬を梅そてあもおし家あけひらの　宗牧

まかへ梅さちおもまれ乃春色おし　同

ふ雪も梅こころまとむろあかひ哉　同

さけをもり年のうてとや梅れ花　同

冬咲もたの月やと紀も本やとのむめ　同

雪より梅春はのめのまそはさとうの　同

いくまつのふりとしの立枝梅れ花　同

冬もむめうつゝとおもふまはの鉄　同

うへくまは春ゆくゆかへ宿のむめ　周桂

雪ゟ咲むめも一葉のくまもなし　同

古年のみえぬやいろ香むめれ花　同

玉ゆつる春ゆく梅乃立えかな　同

十月廿又日

梅をうけ君目なるもや神まつき　昌休

千句

梅ハさかへそふまたきぬ春もかし　同

同

ちるゆくを種やとも一本むめのはれ　同

行く比とゆく年かへし梅れはれ　同

宗初ゆかり高山石見守にて独吟

老士真行

まつ侍をこれ一とせやむめれはれ　同

但州より還京之時龍崇坊まて

はるふ梅まちつゝき中のこゆきかな　同

播州越水あく堀田若州新宅

さきそめて千年をふらせ宿れ梅　同

花ハゆきまかひさもむめれ冬をなし　同

雲くの後行くを待らむむめの花　宗養

もろさかんひろなかしそ宿乃梅　同

あ遊て梅咲けりせん冬か空し　同

冬とも清とりのふ梅のかをり哉　同

先行き〳〵むめ咲もまさん春もなし　同

さく袖ある風ちりしむめの花　同

春さりむとさえはうつめ雪のむめ　紹巴

ゆく年をものゝやどり道そのゝ梅　同

山ゆくやこゝ添ら花人の宿乃梅　同

春またぬ窓らや梅の香ゆきたれは哉　同

さくみ香をみもつくさし園の梅　同

冬はこの花すきうりんもとをすし　同

梅うしも咲や小ゆ野をはうれかな　同

冷ふゝとも道理たの見はらやとの梅　同

春よ何もんこゝろや梅の冬あとかな　同

おもしし梅さへ待花をかくさ枝うか　昌叱

さ花も木乃花や冬まうぬやとの梅　同

梅の香に春を夢かきの色ふく哉　同

明院道善

冬のれよ見まうやくち木乃むめのも　同

小雨ゆくやとはは見も窓の梅　同

いろと春よ乃こそ梅ゆく冬木のれ　同

ゆ花よ梅冬木をたちなはいろ香のか　同

冬ゆくや春いそく霞しむめの花　同

年内立春

おもしめなるを春さそ後れ年の暮
猶またハはるやうらめんけふの暮　宗祇
春きてハわかぬ都のあとしかな　宗碩
雪なからかハやゆるらし春のみすゑ　同
くれてみよあくるくれのとし哉　宗牧
まちえてをかをまさるや花の春　宗養
年乃内ニ春やまさるの春のまち　同

歳暮

ちる雪のひかりに合ぬ年を哉
行しむとも春はしらせし年の暮
さら帰はるあれもおしやしの暮　宗祇
ゆくとしは暮月けりりのくれをかな　同
暮の日ハくれよりさやきとし哉　同
年くれし猶を一日の夕のかな　同
としとふまおんすくるし月日哉　同
そしに見よ月日ハくるる年を暮し　同
ゆくそすゑく留て定加紀月日のくれ　同

としハ今ちゞくてとらし千世の春　同

宗祇法師身まかりて乃年のくれは
名号乃連歌すし侍り

かきりしある八身にならぬ今年哉　同

色の色ぬ松にかくるゝとしもかな　同

はつまてまくまさハ波られぬ春を哉　同

草も木を花乃春まつ見やこれ　同

世ハ春なふる内をおしきことし哉　同

ふるき惜ミ春とや波へふることし哉　宗碩

くれぬとふよの始め乎今年哉　宗牧

月花まかきこしのとの年のくれ　同

ちとせへん宿まもおしむくれのはし　同

旅人をもり年ま越へさむ山かつ那　昌休

春まちそうし見てくれぬ年も哉　宗養

見まそて行ことしの内やふあとし哉　同

春すもり年や半天乃桐やとふ里　紹巴

起すりせ一夜すし女さん年礼くれ　同

なくかきる人におしまし年乃暮　同

いくとせをくらさんふる庭乃松　同

おしみすなま来のきりなれとしの暮　同

万代をつくやそふん年礼く逢　同

歌ふ夜を待ちくらしまゝにくれ　同

惜むかなすくよのたよりの年ぞおしき　同

うきハ人ゆのさまに行年かな　同

雑冬

松乃葉に冬籠れ清ものこりけり　心敬

雨寒と志づくは木末に氷るひかれ　賢盛

日のけゆるとあるさむき嵐の朝

世も事を見るとしれおのくすれ

こゝろとめてたれも花咲冬かれの

山松ていろをもたさぬ冬野かな

ひとりまつ立つ人さむき江のかな

うきもれくは山窓あさ戸かな

みゆれ色といはともなくてや岑の松　宗祇

深山木を冬もこゝろ有る清しのれ　同

音もせぬや渕水さむしこけの下も　同

酒はりてあそびし人の家まて

風をふけて手すりは冬のあし　同

冬海の見る一本の人乃山のとの　同

ゆきまろかれきしをたれ乃沖つ波　肖柏

なにもなやすこしそとなかく冬の海　同

紀伊国にくだりし時海上乃

眺望也

入るゝ日を冬もまゆうのゝ湊の都　同

敷笑すそ

山のねまるも雨やゆうちの冬聲の礼　宗頑

千句冬は軒をそ

佛やも紀しをわりのねまうのはか　同

冬されもときふ山の○よる木間のれ　同

待かれもうのひかるるし那　家狩

冬咲ハ津代もそうのぬ清くうのれ　同

こうろもやうすきものれぬ手向草　同

あうらすめて詣やよふ嵜うぬ宿れ妻　周桂

金勝坊新造坊にて

ゆうみうやのきえれさかへ花の春　昌休

山も咲種ハこうろれもちもられ　宗養

花をつくよ岩かなそしこ冬をかし　同

氷られて冬のき見せぬや分気の那　同

雨やけさ見うく氷かさよあし　同

やとりきぬ清ゆやふゆ木れ山と泊　同

すゝ哉のれ松乃景あるを岩根うか　同

夜ハあほり冬わとけり清水うか　同

稚の景やつもうぬゆきの山就ろし　同

山紀清く見も山ふ寒しの世の松　紹巴

まつ松のいろに生そふ雪ふ野かれ　同

芦の葉のまちの葉悲花柳のかな　同

芽乃ゆく恵なく沈む冬枯草木のかな　同

すそふ池は草もと冬の名残り哉　同

か残し緑のこ高さは知よもひ哉　同

ときにも木の根ふのさ見する冬籠哉　同

冬なりし枝葉を見する本地めのかな　同

末いつは春ちの花用もなりしやま　同

石男まや冬も根ふの紀本ものいろ　同

冬ありも葉を経なしの草木の哉　同

すそふ新もちのきをとばき春日哉　同

冬ハ松にし治る四方乃河しかの船　同

とれ浅つくまるの岡さへも枯野哉　同

冬しらぬこゝろの松や若みとり　同

ときはも木乃中やさなりし冬かまへ　同

年乃内よりの内表あらしまつの冬　同

冬こそと禄ありし治はかもんに治の毛　同

老木にも冬あるぬかけの小妻かな　同

妻すちてすいやうしやむきて乃色　同

草もとあとも小中や紅流は松の冬　同

小ゆきには本山をまあ乃木末すれ　同

冬山の志らしあ松にこすゑかな　同

雨つゝみなをも一しかの冬野かな　同

冬枯れ日の隠沼にもみちりかな　同

麦をゆすて一本を手にゆられけり　同

冬枯れすゑ毎のこなたに老木の一　同

石よりそふ麦むしのやねを冬野けれ　同

冬枯れもゝ鶴もむかしきおれ本のかな　同

枯し根を来れぬ来すけりあかれ　同

さゝふ神の冬籠りまさし冬枯れ春　同

渡まきて冬田よりなかく稲葉のかな　昌叱

そへゝ河てかを冬ちりぬ川の水の冬　同

佐世長州山口

冬こもりの民ハたゞすらこゝろのかな　玄仍

お大坂

山ゆのきうあろをし声のかわさ哉　同

常盤木をこまくさ冬山れもそしさうれ　同

110X
121
3